

障害者支援施設 障害者福祉センター厚和寮

1 基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

2 利用者の状況（令和 8 年 3 月 3 1 日現在）

（1）入所者状況 (人)

利用人数			前年 度末 利用 者数	令和 7 年度中の入退所状況						利用 延人員	年間 平均 稼働 率	年度 末利 用者 数	
区分		定 員		入 所	退 所	退所理由別							
						家庭 復帰	施設 移管	契約 解除	死亡				
生活介護			60	60	6	13	3	8	0	2	10, 324	64. 0%	56
施設入所支援			40	35	0	8	0	7	0	2	10, 988	75. 3%	29
6 年度	生活介護		60	67	0	7	0	4	1	2	12, 357	76. 5%	60
	施設入所支援		40	41	0	6	0	4	0	2	14, 009	95. 9%	35

（2）障害支援区分

①生活介護 [4. 0] (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
男性	0	0	1	13	16	7	4	41
女性	0	0	0	5	6	3	1	15
計	0	0	1	18	22	10	5	56

②施設入所支援 [4. 3] (人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
男性	0	0	0	5	8	5	3	21
女性	0	0	0	2	3	2	1	8
計	0	0	0	7	11	7	4	29

3 事業の実施状況

(1) 安定した経営をめざす

昨年度後半からグループホーム建設・移管に向けて定員減に取り組んでおり、今年度当初の入所利用者35名は、現在6名減の29名となっている。グループホームの入所定員は20名（内1名は短期利用）であるため、今年度中に10名程度の移管が必須である。

また、厚和寮利用者の住み替えだけに留まらぬよう、当面は法人内施設利用者からの人選も進める必要がある。しかし、入居利用者や職員にとっても新たな暮らしのスタートとなるため、混乱を避ける観点から、時期をずらした段階的な稼働が望ましいと考えられる。

短期的な経営状況としては、今年度は赤字決算となる見込みであるが、移行期であり、中長期的にはやむを得ない過程と思われる。

グループホーム建設に向けては、漸く実施設計が固まり、補助金申請後、7月頃の工事着工、令和9年度4月1日開設を目指して取り組んでいる。しかし、めまぐるしく変わる社会情勢の影響により、建築費の高騰が想定を超えて膨らむ可能性がある。

通所利用に関しては年度当初26名からスタートし、途中5名の利用終了と5名の利用開始があり年度末の利用者数は変わらず26名となっている。週の利用回数が1回から2回の人がほとんどとなり、週3回以上利用する方は3名のみとなっている。利用回数は個人の事情によるが事業所の稼働率向上には難しい状況となっている。

短期入所についても目標稼働率を達成することは出来なかった。しかし、利用実人数は昨年度の9名から13名と4名増加した。いずれも緊急短期利用であり、社会的貢献度は高かったと考えている。定員減を進める中ではあるが、次年度もこの点に力を入れ、社会的役割を果たしていきたい。

- ・稼働率：生活介護64.0%（目標80%）、施設入所支援75.3%（目標80%）、短期入所23.0%（目標30%）

(2) ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供

本人ニーズの引き出しを第一に家族の意向も聞き取りながら、定期的にカンファレンスを開催した。

当寮が来年度限りに施設入所支援を終了することから、今後の進路についてご本人およびご家族の意向確認に注力した。慣れ親しんだ厚和寮での生活を終え、「住む場所を変わらなければならない」という大きな変化に戸惑われる方も多かったが、今後の人生を考える良い機会となったと考える。次年度は、新しい暮らしへスムーズに移行できるよう、将来像の具現化に寄り添った支援を行っていきたい。

また、8月より新たに理療師を採用した。従来の作業療法士によるリハビリ訓練に加え、理療師による施術を組み合わせることで、より高い効果が得られている。

(3) 地域共生の土壌作りに努める

例年行っている鳥取湖陵高校の現場実習や園芸セラピー、中学生の体験、社会福祉士実習等依頼のあったものは可能な限り受け入れした。今年度は初めて介護福祉士育成校から外国人実習生の受け入れも行った。

(4) 働きやすい職場作り

事務職員や上司の声かけにより、サービス残業禁止の徹底を行った。

月初めに職員夕礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の高揚を図った。

寮内の復命研修の機会を増やし、情報の共有に努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間（月）	実人員	延人員
社会福祉士相談援助実習	8、9、10 月	3 人	11 人
鳥取湖陵高校（現場実習）	5-12 月	8 人	120 人
鳥取社会福祉専門学校	11 月	4 人	20 人
介護等体験	9 月	4 人	20 人
計		16 人	171 人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取大学付属特別支援学校高等部、ボランティア体験事業、寺族会婦人会、

鳥取湖陵高校、園芸セラピー

[延べ 135 人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 6 名及び空床型

(2) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	13	503	9	474